

編集後記

□ 広報・編集委員を仰せつかり、2年目になりました。隅田常任理事、水谷理事、鈴木委員長のご指導のもと、第41巻1号の編集に関わらせていただき、ICDの事業内容をさらに詳しく知ることが出来ました。
▶総会・認証式、年末集会、冬期学会の様々な嗜好を凝らした企画に参加させていただき、感銘を受けました。ICD日本部会が、盛会となり、ICDが益々発展しますことを祈念申し上げます。これからも、どうぞ、よろしく願い申し上げます。
(七沢 久子)

□ メタボ症候群の基準を下げる、という新聞記事を読みながら学会誌作成に関するスリム化に思いをはせる。編集会議の回数を減らすなどの減量対策を乗り越えて作成した本号。ICD会員の学術の豊かさを実感。
(佐藤 恭子)

□ この2年間私にとってはじめてとなる編集委員会は、毎回明るく和気藹々とした雰囲気の中で開催されました。そしてこの度、第41巻1号を発刊することができました。
▶いまままでご指導いただきました隅田常務理事、水谷理事、鈴木委員長はじめ委員の諸先生方、そして御協力いただきましたフェローの皆様へ深く感謝いたします。
(松島 正和)

□ 役員任期交代時期は五輪開催年と一致しています。
▶トリノ冬期五輪はイナバウアーの1つの金メダルで盛り上がりました。バンクーバー冬期五輪は5つのメダルを取りながら金メダルがなかったためか消沈気味でした。編集にも金メダルは必要だと痛感させられます。
(鈴木 設矢)

□ 隅田常任理事、鈴木委員長のもと 委員会メンバー一丸となって発刊出来た事に感謝します。
▶ホームページの更新も順調に進み、とても楽しく良い一年を過ごす事が出来ました。会員への情報発信源として更なる発展を祈念して居ります。
(水谷 忠司)

□ 私は広報・編集委員会委員としてこの2年間、この編集後記を書くだけのために存在しているようなものでした。そんな役立たずの私に、諸先輩方は暖かくご指導して下さい、お酒までも飲ませて下さいました。いつかはマシになるだろうとのご期待（もしあったのなら）には副えませんでした。ICDの一員として様々な先生方とお話が出来たことが一番の思い出であり、宝物でした。長い間本当に有難うございました。
(浅井 澄人)

□ 広報・編集委員会に参加してあっという間の2年間が過ぎました。雑誌の編集という初めての新鮮で楽しい経験をさせていただきました。
▶諸先輩方の話しを聞きながら、少し、その会話に加わっていけるようになったかなと感じております。雑誌にホームページ、広報活動にも変革が求められているのではないのでしょうか。2年間の委員会活動を通していろいろ勉強させていただきました。歯科界の先行きに不安が募りますが、それを跳ね返すためにも、今後もICDフェローとして皆様とともに勉強していきたいと思っております。
(宮本 克樹)

□ ICDの編集委員として、飯高フェロー、隅田フェローの下でお手伝いさせて頂いて、気が付いたら6年が過ぎていました。この間、2007年には50周年記念誌の編集に関わることもでき、多くの著名なフェローの原著と出会えたことが、これからの臨床に大いに役立つものと感謝しております。
▶6年の編集委員を通して感じたことは、広報・編集委員会が多分唯一の情報機関であると思っていますので、できるだけ正確な情報を的確に知らせていただければと考えております。ますますの活躍を期待しております。
(鏡 宣昭)

□ あっという間の2年間の任期でした。ICD日本部会は法人化に向けて齋藤会長をはじめ小坂橋事務局長、改革推進委員会、財務委員会のご活躍で「一般社団法人国際歯科学士会日本部会」の運びとなりました。大変喜ばしいことと思っております。
▶広報・編集委員会は雑誌の発行、ホームページのアップなどスムーズに運営できたのはフェローの皆様の大変なご支援とご協力、そして委員の一致団結のたまものと思っております。ありがとうございました。
(隅田百登子)